

施設名/連絡先	展覧会名	会期	休館日
横尾忠則現代美術館 * ☎078-855-5607	・兵庫県政150周年記念事業 横尾忠則 在庫一掃大放出版	9/15(土)~12/24(月・振替休日)	月曜 (祝日の場合は翌日休館)
BBプラザ美術館 ☎078-802-9286	・コレクションを核に 関西ゆかりのデモクラートの作家たち 泉茂・山中嘉一・吉田利次・吉原英雄	前期: 7/3(火)~8/5(日) 後期: 8/7(火)~9/17(月・祝)	月曜(祝日の場合は翌日休館) 9/18(火)~11/16(金)
神戸市立博物館 ☎078-391-0035	リニューアル工事の休館のため特別展等はありません。	※休館(予定): 2018/2/5(月)~2019/11/1(金)	
西宮市大谷記念美術館 ☎0798-33-0164	・2018 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展	8/11(土・祝)~9/24(月・振替休日)	水曜 7/17(火)~8/10(金)、 9/25(火)~10/5(金) は展示替えのため休館
芦屋市立美術館 ☎0797-38-5432	・チャベック兄弟と子どもの世界	7/1(日)~9/9(日)	月曜 (祝日の場合は翌日休館)
伊丹市立美術館 ☎072-772-7447	・みんなのレオ・レオー二展	8/11(土・祝)~9/24(月・祝)	月曜 (祝日の場合は翌日休館)
尼崎市総合文化センター ☎06-6487-0806	(美術ホール) ・荻原一青が描く一百名城手ぬぐいのすべて展 (白髪一雄記念室) ・第11回展示 白髪一雄と尼崎I-木市呉服店の資料とともに	7/21(土)~8/19(日) 4/28(土)~9/17(月)	火曜、8/13(月)~8/15(水) 8/14(火)、9/11(火)
兵庫県立歴史博物館 * ☎079-288-9011	・ふしぎジオラマミュージアム 一兵庫県立歴史博物館×海洋堂フィギュアミュージアム黒壁	7/14(土)~9/9(日)	月曜 (祝日の場合は翌日休館)
姫路市立美術館 * ☎079-222-2288	館内改修のため企画展、常設展等はありません。	※休館(予定): 2018/8~2019/2	
兵庫陶芸美術館 * ☎079-597-3961	・県政150周年記念事業 ひょうごやきもの150年一技・匠からアート・個性へ	6/9(土)~9/9(日)	月曜 (祝日の場合は翌平日休館)
滋賀県立近代美術館 ☎077-543-2111	改修・増築工事の長期休館のため企画展等はありませんが、各種イベントがあります。		

*印がついている施設では、会員証の提示で割引などの特典が受けられます。上記の展覧会内容、休館日等は、各施設の都合により変更する場合があります。詳しくは、各施設にお問い合わせください。

Sea Front

シーフロント

Sea Front 2018年8月1日発行

編集・発行/兵庫県立美術館「芸術の館友の会」事務局 〒651-0073 神戸市中央区駒形海岸通1-1-1 TEL: 078-262-0916 FAX: 078-262-0903
http://www.artm.pref.hyogo.jp E-mail: tomonaka@artm.pref.hyogo.jp 次号は2018年10月発行予定です。

プラド美術館展

ベラスケスと絵画の栄光

VELÁZQUEZ AND THE CELEBRATION OF PAINTING: THE GOLDEN AGE IN THE MUSEO DEL PRADO

2018年6月13日(水) - 10月14日(日)



《狩猟服姿のフェリペ4世》1632-34年

現在開催中の「プラド美術館展」に副担当として関わることになったのは2年前のことです。個人的なことですが、当時のスペインに植民地として支配されたメキシコに留学した経験を活かすために担当を希望しました。本展に出品されている16~17世紀のスペイン王室の豪華なコレクションは、新大陸からもたらされた富によって収集されたものです。かつて「陽の沈むことのない帝国」と呼ばれたスペインは17世紀に経済的な破綻を迎えましたが、その権力を誇示するかのよう絵画を集め続けたフェリペ4世とは、いったいどのような人物だったのでしょうか？

ベラスケスの手によって描かれた《狩猟服姿のフェリペ4世》は、国王としては質素な服に身を包んでいます。「戦い」の疑似体験である狩は政治手腕に例えられるものですが、当時20代後半~30歳頃であった国王は確かな腕前だったということです。

かし実際の政治では、宰相オリバーレスが実権を握り、王が采配を振るうことはできませんでした。

男前とは言い難い(ごめんさい...) スペイン・ハプスブルグ家特有の風貌の王を、ベラスケスは気品ある姿に描きました。有能な支配者であり、カトリックの守護者、狩猟に秀で、文芸を愛する王。手に持っていた帽子を頭に被せたり、銃の長さを短くしたり、足の角度を変えたりといった描き直しの痕跡を肉眼で見ることができ、ベラスケスの試行錯誤が窺えます。

本作は、マドリッド郊外の森にあるトーレ・デ・ラ・パラダ(狩猟休憩塔)のために描かれた1枚です。1635~37年にかけて増改築工事が行われた塔の内壁を装飾するために170点を超える絵画作品が国内外に発注され、ベラスケスも多くの絵画を制作しました。

《マルス》もこの場所のために描かれた1枚です。軍神マルスの足下には、楯や武器が無造作に置かれています。腰に青い布をまとっただけのくたびれた中年男性は、一見、戦いの神には見えません。安心してベッドの縁に腰掛ける様子から、一説にはヴィーナスとの浮気を夫ウルカヌスに見つかった姿とも言われていますが、伝統的なメランコリーのポーズは、戦いに疲れたひとりの男を表しているのではないのでしょうか。30年戦争は長引き、1635年にフランスがスペインに宣戦布告。1640年代にますます弱体化した王国は、その後、斜陽の一途を辿ります。《マルス》は、フェリペ4世と身近に接したベラスケスのみに描くことのできた王の真の姿なのかもしれません。

フェリペ4世の嫡男、未来を嘱望された王太子バルタサル・カルロスは1646年に16歳の若さで逝去。二人目の妻との間に生まれたカルロス2世は、度重なる近親婚により体が弱く、スペイン・ハプスブルグ家最後の王となりました。二人の肖像画は、本展で見ることができます。スペイン絵画の輝かしい黄金時代、その光と陰が作品にくっきりと描き出されているかのようです。

(橋本こずえ/当館学芸員)



《マルス》1638年頃
いすれもディエゴ・ベラスケス マドリッド、プラド美術館蔵
©Museo Nacional del Prado

美術館をのぞく Part2

~「美術講座」をのぞく~

皆様、「美術講座」ってご存知ですか?日本画、洋画、デッサン、水彩画、エッチング、木版画の6種類、それぞれ全17回のカリキュラムが、美術館ギャラリー棟1Fの「アトリエ2」で行われています。この講座、前身の近代美術館の開館当初から続くとか。今回は、「洋画」に潜入しました!

その日は「人物を描く」最終で、約20名の生徒さんがモデルの女性を囲み、制作の真っ最中。一見、和やかなムードですが、皆さんの真剣な熱量が伝わってきます。初心者対象の講座ですが、生徒さんのほとんどは経験者で、中には「退職」や「孫の誕生」を機に再開される方も。講座歴7年のSさんは、元々絵が好きで、高校時代はクラブで油絵を描いていたとのこと。なんとSさん、7年間、無遅刻・無欠席!いろんなこともあったけど、描きたい気持ちは途切れなかったそうです。一方、今回の講座で50年ぶりに筆を持ったというKさん。学生時代、時間がなく絵を描くことを断念したが、たまたま講座のチラシを見て思い切って挑戦されたとのこと。経験者も多い中、初めは不安もあったそうですが、仲間から「いいね!」と声をかけられたり、自分も周りの「いいところ」を盗んだり、刺激を受けながら楽しんで描いていると話されます。講師の谷本先生も、生徒さんの熱意に感嘆。それぞれが「こんな風に描きたい!」という具体的な構想をもっているの、先生はその世界を表現するためのサポート役なのだとか。また、実際に描くことで鑑賞が深まるし、すぐそこにある本物をいつでも観に行ける環境は最高だと力を込めます。そして一言、「ベラスケスもいいけど、このオモシロイ作品たちをぜひ観てほしい!」とも。

美術講座の募集は春・秋2回、後期の募集は9月頃です。詳しくは、美術館HPをご覧ください。気になる方は、一度、アトリエをのぞいてみては...?
(黒田/事務局)



新会長より ~みなさまと共に!~

私の履歴書: 前身の兵庫県立近代美術館時代より、会員歴29年、役員歴7年、副会長歴3年、今年度、会長をつとめさせていただくことになりました新谷です。私の美術館のお気に入り作品は舟越保武作、《ダミアン神父》。会員みなさまのお気に入り作品もお伺いしたいと思っています。みなさまと共に、なごやかな雰囲気の中、この美術館を盛り上げていければと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。
(新谷里美/会長・企画運営委員)

2018県展 2018年7月28日(土)~8月18日(土)

会場: 原田の森ギャラリー 観覧無料

日々、創作活動に励む県民の皆様が作品発表の場である「県展」。今年も絵画/彫刻・立体/工芸/書/写真/デザインの6部門で開催します。500点を越える応募作品から見事入選を果たした力作の数々(会場に並ぶのは約1/3です)。お見逃しなく。

平成30年度「芸術の館友の会」会員特典のご案内

友の会では様々な特典がございます。会員の皆様はぜひご利用くださいませ。

「ミュージアムぐるっとパス・関西2018」友の会カウンターにて特別価格で販売中! (詳しくは、上記検索に従い「友の会ホームページ」をご覧ください。)

相坂監事 退任のごあいさつ ~友の会監事卒業~

友の会監事を卒業する日が来ました。2012年6月2日四代会長の時に、監事に就任してから6年会計監査を担当しました。大変な量の資料の監査は、当初、前年の上書きコピーによる修正ミスや鉛筆書きなど、基本的なミスが目立ったが、今は資料の整理や作成がレベルアップし、監査も短時間で十分な確認が出来るようになった。事務局の中山、宮崎、黒田さんと3代にわたり、よく耐えて対応してくれたと、感謝しています。最後になりましたが、友の会各理事ならびに館の事務局関係者の皆様には長い間、本当に世話になり、ありがとうございました。
(相坂 暁/前監事)



新谷新会長(右)とともに

特典内容については、兵庫県立美術館「芸術の館友の会」ホームページをご覧ください

兵庫県立美術館「芸術の館友の会」会員特典

で検索
※特典のご利用には会員証のご提示が必要です。

「プラド美術館展 ―ベラスケスと絵画の栄光―」展 記念講演会

7月に行われた展覧会監修者による第1回記念講演会に続き、下記のとおり第2回～第4回が予定されています。展覧会の核となる作家ベラスケスをじっくり掘り下げる2本と、広く同時代のヨーロッパ美術にもつながるお話、いずれも聞けば鑑賞深まること間違いなし。お聴き逃しなく！

第2回 8月19日(日) [受付締切:8月11日(土・祝) 必着]
「創意の画家ベラスケス 王の愉しみのために捧げた芸術」
 講師：岡田裕成氏 (大阪大学教授)

第3回 9月9日(日) [受付締切:8月25日(土) 必着]
「ベラスケス、人と芸術―静かなる絵画革命」
 講師：大高保二郎氏 (早稲田大学名誉教授)

第4回 9月30日(日) [受付締切:9月15日(土) 必着]
「バロック美術とスペインの黄金時代」
 講師：宮下規久朗氏 (神戸大学教授)

いずれもミュージアムホール (当館ギャラリー棟1F) にて
 14:00～(約90分) / 募集座席: 20席

「中ハシクシゲ ― 触りがいのある犬」 関連事業 アーティスト・トーク+対談

幼少期に視力を失った小原二三夫さん(1951-)。博物館・美術館での鑑賞経験が豊富で近年は木彫も手がける、いわば触覚の達人です。「かたち展」出品作家にして塑造の達人、中ハシクシゲさん(右頁「県美プレミアムを味わう」参照)との対談では、触覚でつくること、触覚で見ること、彫刻の表現するもの等をめぐり、刺激的なお話が伺えるに違いありません。

9月1日(土) [申込締切:8月18日(土) 必着]
「触覚が生み出す作品とは」
 講師：中ハシクシゲ氏 (出品作家)、
 小原二三夫氏 (日本ライトハウス情報文化センター)
 レクチャールームにて 15:00～17:00 / 募集座席: 20席

優先席とは…聴講は当日先着順のところ、会員専用聞きやすい座席を確保いたします(お席はこちらで指定します)。
 お申込みは…氏名・会員種類/会員番号・参加希望の講演会名をFAXまたはメールでお知らせいただくか、館内友の会カウンターまで。応募多数の場合は抽選。

兵庫県立美術館「芸術の館友の会」事務局 FAX/078-262-0903 E-mail/tomonokai@artm.pref.hyogo.jp

「県美発!ミニFM・ラジオ美かえる」サポーター募集!

新企画、地域と県美を繋ぐラジオ局を開設します!美術館周辺の活動取材&発信♪11月の「関西文化の日」に館内で放送予定です。地域の方々への取材や当日の放送をサポートしてくれる方を募集します。なんだかよくわからないけど…楽しそう!という方、でもOK!ぜひ、お気軽にご参加ください。(写真は、放送のイメージです。)



Photo: Ai Hirano / Yui Sukeguchi

お申込みは…氏名・会員種類/会員番号・「ミニFM」参加希望の旨をFAX・メール・TELでお知らせいただくか、館内友の会カウンターまで。[受付締切:8月23日(木) 必着]

兵庫県立美術館「芸術の館友の会」事務局

FAX/078-262-0903 E-mail/tomonokai@artm.pref.hyogo.jp TEL/078-262-0916

※参加条件: 8月26日(日) 13:00～(約1～2時間程度)の事前ミーティングに出席できること。

予告

日帰りバス旅行

今年の日帰りバス旅行は、米田新副会長からご提案の岡山・備前をめぐる企画。特別史跡閑谷学校とFAN美術館/藤原啓記念館を見どころとして計画中です。12月1日(土)開催予定。次号で詳細をお知らせいたします。

5月27日(日)、午後1時より総会を、引き続き、総会記念レクチャー・会員交流会を実施しました。

平成30年度「芸術の館友の会」総会報告

今年度の総会は、出席者46名、委任状243通。昨年度の事業・入会状況・決算について事務局より報告し、下記の新会長、副会長、監事を含む役員人事が承認されました。また、本年度の事業案・収支予算案についても原案どおり承認されました。

なお、総会資料より本年度の自主企画事業の箇所のみ本誌に同封しています。他の資料および議事録は、昨年度同様、館内の友の会カウンターでご覧いただけますので、ご来館の折にお立ち寄り下さい。(事務局)

平成30年度新役員 会長: 新谷里美、副会長: 米田健司、監事: 今井克己 (いずれも友の会会員)

「総会記念レクチャーを拝聴して」

無事閉幕の日を迎えた「小磯・吉原展」の総括では、個人蔵作品借り受け等々の苦労話も嬉々と語られる相良先生、開幕迫る「プラド美術館展」について、7点のベラスケス作品を軸に7章構成の見所を解説下さった飯尾先生、30分ずつの枠から溢れ出る両氏の熱い思いが伝わりました。

展覧会開催の舞台裏での膨大なエナジーと時間の傾注、多くのご尽力により、我々鑑賞者は古今東西の文化も歴史も…全て含めた多様性の豊穡を知るのです。全てのプロの仕事の原動力には人間への深いまなざしと敬意、つまりは広義での「愛」があるのだと思います。県美を支える全ての皆様の愛に感謝いたします。

さあ、今期はブラリピ(プラド展レポート)してマドリッド気分を浸りましょう!スペイン王家コレクション、半端ないっ!(高槻市 Y.Y/会員)



「小磯・吉原展」苦労話中の相良芸芸員

「会員交流会に参加してみよう」

5月27日の総会、熱の入った記念講演会の後、参加者20名にて、会員交流会が行われました。飯尾前会長、新谷新会長のご挨拶の後、今井さんの軽妙な司会で会は進行していき、盛り上がったのが「あなたは誰?」、二人一組で相手を紹介するゲームです。良く知る知人だったり、初対面だったり、お仕事もピアノ講師やゲーム理論の先生、演劇関係者など多彩、お住まいも近所から大阪や加古川だったり様々でした。唯一共通したのは、「皆さん、美術と県美が大好き」ということです。

爆笑も有りの楽しいあつという間の90分でした。企画及びお世話された皆様に深く感謝いたします。有難うございました。(K.N/会員)



二人一組の「あなたは誰?」の様子

県美プレミアムを味わう

触って味わう「かたち」展、今年「触りがいのある犬」。2018年7月7日(土)～11月4日(日)

毎年夏に開かれる「美術の中のかたち―手で見る造形」、通称「かたち展」。近美時代の1989年から続く恒例企画です。「手で見る」、すなわち展示物を直に触るという鑑賞方法は、視覚障がいのある方へのいわゆる合理的配慮に留まらず、あらゆる立場の人に刺激的な体験をもたらしてくれるものですが、本来「見るため」につくられた作品を触るという点、拭いきれない「もやもや」も残ります。

多分に触覚的とされる彫刻とて、最後は「見ごたえ」優先で作られているのでは?畢竟、視覚的な造形の影に隠れがちな触覚のかたちに迫るべく、今年「かたち展」出品作家の中ハシクシゲ(1955-)さんがとったのは、敢えて視覚を遮断し触覚だけで塑造(=粘土で造形)するという手法。モチーフは犬。愛犬家の中ハシさんは元より、多くの人が身近に「触れる」ことの多い生き物です。



見越しの松や閑取といった日本的題材のポップな彫刻や、ゼロ戦に関するプロジェクトなど、多彩な作品を手がけてきた中ハシさん。写真は約30年前の犬の作品。元町駅手、兵庫県公館のお庭に居ます。中ハシクシゲ(Dog・Nights)1987年

「見ごたえ」はないかもしれないが「触りがい」はあるはず、という「かたち展」史上初の実験的試み、是非お見逃し、いや、触り逃しなく。関連事業として、作者自ら今回の実験的な制作過程を語るトーク+ゲストを迎える対談も予定。ゲストのご紹介は左の優先席の記事をご覧ください。(江上ゆか/当館学芸員)

横尾忠則現代美術館

兵庫県政150周年記念事業 横尾忠則 在庫一掃大放出版

2018年9月15日(土)～12月24日(月・振替休日)

2012年の開館以来、横尾忠則現代美術館では様々な切り口から横尾芸術を紹介してきました。たしかに横尾さんの作品数は膨大で、その作品世界にはありとあらゆるもの、まさに森羅万象が含まれています。一方、我々凡人の発想には限りがあり、次々に展覧会のテーマを考えるのは正直たいへんです。そこで今回は、特定のテーマのもとに出品作品を選ぶのではなく、「横尾忠則現代美術館でこれまで展示したことのない作品」のみで展覧会を構成することにしました。題して「横尾忠則 在庫一掃大放出版」です。

とはいえ、決して「在庫」=「不良在庫」ではありません。たまたま登場の機会がなかっただけで、魅力的な作品がまだまだありますし、これまであまり知られていなかった、横尾さんの意外な一面を伝える作品にも出会えるでしょう。さらに美術館全体を「特売セール会場」に見立てたユーモラスな演出を行い、関連イベントとして、なんとチンドン屋さんに登場してもらいます。一見ふざけているようですが、コンセプトよりも直観を重視する横尾さんの生き方や、横尾さんのインスピレーションの源である近過去(昭和)に対する眼差しを、この展覧会では立体的に体感していただけることと思います。(山本淳夫/横尾忠則現代美術館学芸員)



横尾忠則(終末の聖画安売)1998年 163.0x130.3cm 油彩、ラッカー、コラーージュ・布 Villa Magical 2014 蔵

●映画情報

いずれも友の会会員特別料金500円でご覧いただけます!(会員証をご提示ください。) ※詳しくは同封チラシをご覧ください。

KEN-Vi名画サロン 平成30年度文化庁優秀映画鑑賞推進事業(9月上映)

9月7日(金) ①10:30『野火』(1959年/大映/104分/白黒/シネマスコープ/監督:市川崑)

②14:00『ぼんち』(1960年/大映/104分/カラー/シネマスコープ/脚本・監督:市川崑)

9月8日(土) ①10:30『東京オリンピック』(1965年/東京オリンピック映画協会/170分/カラー/シネマスコープ/企画・監督:オリンピック東京大会組織委員会)

②14:00『おはん』(1984年/東宝映画/112分/カラー/ビスタ/製作・脚本・監督:市川崑)

恒例の文化庁主催の映画鑑賞プログラムです。今年市川崑(1915-2008)監督の4本(没後10年、ですね!)。『野火』は3年前に塚本晋也監督作品(主演も)が上映されましたね。見比べるのも面白いかも。『おはん』の俳優陣は吉永小百合、大原麗子、石坂浩二。『ぼんち』は市川雷蔵です。雷蔵の妻といわれる二宮さんには中村玉緒、若尾文子、京マチ子、越路吹雪、草笛光子が競演。これら3本は文芸作品で原作はそれぞれ大岡昇平、宇野千代、山崎豊子。小説の方も名作です。

KEN-Vi名画サロン(9月上映)『謎の天才画家 ヒエロニムス・ボス』

9月15日(土) ①10:30 ②13:00 ③15:00

(2016年/スペイン・フランス合作/90分/監督:ホセ・ルイス・ロペス＝リナレス)

7月に続いてプラド美術館展関連映画。同館の全面協力のもとに撮影されたドキュメンタリーです。代表作《快楽の園》を徹底分析、といった内容でしょうか。出演者の名前を概観すると、ボスの専門家や有名小説家などがその不思議と魅力を語っておられるようです。



©Museo Nacional del Prado ©Lopez-Li Films (映画案内人 西田桐子/当館学芸員)